#### 【別紙様式3】

#### 再評価実施事業調書

番	号	4		事業	名	習志野	野市	公共下	水道事業	路線又	印旛処理区					
	事	業	所	管 課			٦	下水道語	₹	事 業 主 体			習志野市			
事業	<b>美化</b> 生	丰度	昭	和62年	度	用地着手	年度		-	工事着手年度 工事終了年度	昭和62年 平成53年		再評価の			実施後一定期 過したため
	月便記 B / (			1.8	紛	と 登用	53	7億円	総便益	982億円	基準年		戊20年度	供加	 用開始 F 度	平成1年度

### 【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20)
処理区域面積	686ha	473ha	407ha
処理人口	49,500人	48,360人	43,760人
終末処理場の処理能力	-	-	-
事業費	343億円	310億円	235億円

【事業の進捗状況】

<b>  字未</b> ツル  ツルル	
指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画473haに対して、407haを整備し、整備率は86%である。
処理場用地の取得状況	-
処理施設の供用状況	-
供用開始区域の接続状 況	接続率は92%である。
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	水質汚濁に係る水質環境基準の新たな設定等、下水道事業に影響のある要因 はない。
計画変更の有無及びその 程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

### 【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用及び小型マンホールの利用によりコスト縮減に努めている。
	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

【対応方針(案)】 習志野市公共下水道事業は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業 を継続していく方針です。

#### 【別紙様式3】

#### 再評価実施事業調書

番号	4	1	事業1	名	習志野	野市	公共下	水道事業	路線又	津田沼処理区					
事	業	所	管 課				下水道語	Ŗ	事 業 主 体			習志野市			
事業化年度		昭	昭和41年度		用地着手	年度	昭和42年度		工事着手年度	昭和41年	度	再評価の理由		再評価実施後一定期 間を経過したため	
3 7.7.0									工事終了年度	平成36年度				間を経過したため	
費用便語 B / 0		选比 2.1 総費用 2,1		2,16	65億円	総便益	4,494億円	基準年	平原	成20年度	供用	用開始 F 度	昭和42年度		

#### 【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H24)	現況(H20)
処理区域面積	1,261ha	1,014ha	963ha
処理人口	98,300人	91,200人	83,100人
津田沼浄化センター の処理能力	78,600㎡/日	80,640㎡/日	59,640㎡/日
事業費	1,042億円	839億円	695億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画1,014haに対して、963haを整備し、整備率は95%である。
処理場用地の取得状況	全用地を取得済である。
処理施設の供用状況	事業計画の処理能力80,640㎡/日に対し、59,640㎡/日を整備済であり、整備率は74%である。
供用開始区域の接続状況	接続率は98%である。
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	水質汚濁に係る水質環境基準の新たな設定等、下水道事業に影響のある要因 はない。
計画変更の有無及びその 程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

# 【コスト縮減・代替案】

指標	状 況
コフト統領	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用及び小型マンホールの利用によりコスト縮減に努めている。 処理場では、省エネルギー化に資する施設の整備を推進し、施設の品質の向上 を図りコスト縮減に努める。
代替案	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

【対応方針(案)】 習志野市公共下水道事業は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を 継続していく方針です。

# 【別紙様式5】

看是			再々	評価	事業に	関する	調	書				
1	番 4 事	業習	志野市公共	共下水	道事業 路約	又は箇所名	等	印旛処	0.理区			
Į	事業化年度	昭和6	62年度	用地	着手年度	-	I	事着手年度	昭和62年度			
【再	評価の概要】											
	再評価実施 (基準年		平成10:	年度	度 供用開始 平成1年度 年度			対応方針	継続			
	B / C				総費用			総便益				
	再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。											
	再評価時の	進捗状	況									
				計	画		捗丬	*** -				
	★ 全体事業 用地取得				355億円 169億円							
	供用面積		)		686 h	<u>-  </u> a		250 h a				
\ <del>173</del>	マ評価の概要				<del></del>		1		Γ			
I H	ラマ評価の概要 再評価実施 (基準年	年度	平成20:	年度	供用開始 年 度	平成1年	度	対応方針	継続			
1175	再評価実施 (基準年 B/C	年度	平成20: 1.8			平成1年		対応方針総便益	継 続 982億円			
1175	再評価実施 (基準年	年度			総費用	十八十		総便益				
145	再評価実施 (基準年 B/C	年度)			年 度 総費用 計 画	十八十			982億円			
145	再評価実施 (基準年 B/C 現在の進捗:	年度) ) 状況			年 度 総費用 計 画	537億円		総便益				
145	再評価実施 (基準年 B/C 現在の進捗 全体事業	年度 ) 状況 <b>養</b> <b>費</b> <b>看</b>	1.8		年 度 総費用 計 画 343	537億円		総便益	982億円			

### 【別紙様式5】

#### 再々評価事業に関する調書

						י דו ≺		Ŧ #	7	- 1	<del>大</del> 」	메미			
F	米田コロ	4	事名		習志	5野市公	共下水	下水道事業 路線又は箇所名等					津田沼処理区		
事業化年度 昭和41年度				用地	着手年	度	昭	和42年度	I	事着手年度	昭和4	1年度			
【再	評化	面の概	要】												
	再評価実施年度 (基準年) 平成				平成10	)年度	供用 年	開始 度	ΠĽ	昭和42年	度	対応方針	継	続	
		В	/ C					総費	貴用				総便益		

再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。

### 再評価時の進捗状況

	計画	進捗状況
全体事業費	1,187億円	639億円
用地取得面積	8.57 h a	8.57 h a
供用面積(延長)	1,306h a	<b>904</b> h a

### 【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始 年 度	昭和42年度	対応方針	継続
B / C	2.1	総費用	2,165億円	総便益	4,494億円

## 現在の進捗状況

	計画	進捗状況
全体事業費	1,042億円	695億円
用地取得面積	8.57h a	8.57 h a
供用面積(延長)	1,261 h a	963ha

再評価時から現在に至るまで、概ね順調に事業が進展している。

### 再評価後の 経過及び 処理状況

#### 【別紙様式3】

#### 再評価実施事業調書

ŧ	昏暑	号	4	事業	名	習志野	野市	公共下	水道事業	路線又	は箇所名等	•	実籾排水区他			
	事	事 業	業 所 管 課 下水道課						事業主体 習					<b>望志野</b> で	र्न	
∄	業化	化年度	度 昭和62年度		昭和62年度 用地着手		年度			工事着手年度	昭和62年度		再評価の理由		再評価実施後一定期	
_	事業化年度 昭和62年度				1011102   1/2   1/3 013   1/2					工事終了年度	平成36年度				冉評価実施後一定期 間を経過したため	
費		更益比 / C	1.7	7 ~ 5.1	絲	総費用 12		2億円	総便益	385億円	基準年	平月	成20年度	供戶年	用開始 - 度	平成1年度

### 【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20)
排水区域面積	686ha	450ha	250ha
処理人口	-	-	-
終末処理場の処理能力	-	-	-
事業費	137億円	110億円	56億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画450haに対して250haを整備し、整備率は56%である。
処理場用地の取得状況	-
処理施設の供用状況	-
供用開始区域の接続状 況	-
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
	新たな開発等もなく、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	-
計画変更の有無及びその 程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

#### 【コスト縮減・代替案】

指標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	-

【対応方針(案)】 習志野市公共下水道事業は、今後も整備が必要とされることから、当事業を継続していく方針です。

# 【別紙様式5】

#### 再々評価事業に関する調書

					再	<b>₹</b>	評価	事	業(	こ	関	する	調	書		
番号	117	4	事業 名	習示	を野市	公	共下水	道事業	<b>業</b> 路	線∑	スは	箇所名	等	実籾排	水区他	
事	<b>事業</b> (	化年度	Ę F	诏和6	32年月	芰	用地	着手生	F.度		-		I	事着手年度	昭和62年	-度
【再	評価	の概	要】													
	再	評価実		度	平瓦	戊10	年度		用開炉		平成1年度			対応方針	継続	į
		В /	′ C					総	費用					総便益		
	再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。															
-	再	評価時	持の道	掺状	況											
		全体	車坐	弗			計		309億	¥ III		進	捗丬	大況 53億円		
	-	用地						•	509元	- 3 J				- 33個日		
		供用	面積(	延長	()			686 h a 23 h a								
 【再		で で で で で で で し び で で で で り で り で り り り り り り り り り り り	 €施年		平点	戊20	年度		—— 用開炉 = 度		平	成1年	  度	対応方針	継続	
-		B /			1.	7 ~				122億円		3	総便益	385億円	—— 9	
	現:	在の進	きまり ままり しょう	沈			-	<u> </u>								
	-	全体	事業			計		•	田田							
		用地	取得			137億円										
		供用		686h a 250ha												
経	評価 過及 と理れ		'n	<b>5</b> 水分	も行て	**整	備して	きた <i>た</i>	が、今	後、	汚;	水事業	と立	を行して事業を	:展開したに	1.